省

鹿児島県屋久島沖における米軍オスプレイの事故について

概要

- 令和5年11月29日1440頃
- 鹿児島県屋久島東側の沖合にて、訓練中の米空軍横田基地所属の CV-22オスプレイ1機が墜落
- 乗員は8名(うち1名(横田基地第363情報・監視・偵察航空団所属)は死亡を確認、 また、要救助者と見られる5名が発見されており、うち2名が収容された)
- 飛行経路は岩国基地~嘉手納基地

現地における自衛隊及び海上保安庁の対応

- 11月29日 1447頃、海上保安庁第十管区海上保安本部が巡視船・航空機を発動
- 11月29日 1458以降、陸海空自衛隊の航空機等が捜索救難活動を開始 ■ 11月29日 1600頃、十管区所属の回転翼機が現場海域に到着し、機体の残該等を確認
- 11月30日 松本防衛大臣政務官が屋久島町長、屋久島漁業組合長、鹿児島県知事を
 - 往訪し、お詫び及び事故の説明を実施
- ※その他、現地調整所において必要な調整を実施
- ※米軍は、空母カール・ヴィンソンとその航空団、ダイバー、無人機及び捜索救助 専門家が含まれる救難部隊を派遣し、航空、海中、海上及び沿岸で捜索救助

日米の主なやりとり

- 11月30日 大和防衛省地方協力局長⇒ラップ在日米軍司令官
- 11月30日 上川外務大臣⇒エマニュエル駐日米国大使
- 11月30日 木原防衛大臣⇒ラップ在日米軍司令官へ要請
 - 国内に配備されたオスプレイについて、捜索救助活動を除き、飛行にかかる安全が
 - 確認されてから、飛行を行うよう要請するとともに早期の情報提供を求めた
- 12月1日 米側からの説明
 - ·CV-22の飛行を行っていない
 - ・日本に配備されている全てのオスプレイは、徹底的かつ慎重な整備と安全点検を 行った上で運用
 - ・事故に関する可能な限り詳細な情報を透明性をもって共有
 - ※陸自オスプレイは、事故の状況が明らかになるまでの当面の間、飛行を見合わせる こととしている





		(田大・水田の心目・・・)
全	幅	25.8m
全	長	17.4m
全	高	6.73m
最大離陸重量		約24,000kg
最大巡航速度		約446km/h
乗務員+搭乗者数		4名+24名
/U. # - W. # B = _		

(出典:米空軍ファクトシート)

鹿児島県屋久島沖における米軍オスプレイの捜索活動について

○ 令和5年11月29日(水)1440頃、鹿児島県屋久島沖の洋上において、在日米軍所属のオスプレイが 墜落した旨の通報あり。 概要 ○ オスプレイの乗組員が行方不明となっていることから、29日(水)1458以降、自衛隊の航空機、艦艇、 地上部隊が活動中。 ○ 陸上自衛隊第8師団司令部(北熊本)、第42即応機動連隊(北熊本)、第12普通科連隊(国分)、 西部方面航空隊(高遊原) 活動 ○ 海上自衛隊第1航空群(鹿屋)、第212教育航空隊(鹿屋)、第22航空群(大村)、 部隊 第8護衛隊(佐世保)、第12護衛隊(呉)、第13護衛隊(佐世保)、第1掃海隊(横須賀)、 第2掃海隊(佐世保)、第3掃海隊(呉)、第43掃海隊(下関)、佐世保警備隊(佐世保) ○ 航空自衛隊西部航空方面隊(春日)、新田原救難隊(新田原)、第603飛行隊(那覇) 連絡 【現地連絡調整所(旧屋久島町役場)】 調整所 内部部局(地方協力局)、統合幕僚監部、九州・沖縄防衛局及び各部隊の連絡員による関係機関との調整等を実施 【自衛隊】 〇これまでに、海自艦艇により機体の一部らしきもの 及び救命いかだ等を揚収 ○4日(月)1100時点の活動実績 <回転翼> SH-60K×2機 <固定翼> 活動 U-125A×1機 実績 <艦艇6隻> ・護衛艦 「とね」、「のしろ」、「きりさめ」 ・掃海母艦「うらが」 ・掃海艇 「みやじま」、「とよしま」 <地上部隊> 人員約110名、ドローン×1機 【海上保安庁】 ○4日(月)1100時点の活動実績 ・巡視船艇×2隻、航空機×1機



潜水十等が水中捜索を実施